

研究課題名	大腸癌遠隔転移に対する薬物療法介入の意義についての観察研究
研究の意義・目的	近年、大腸癌の治療方法は多様化しており、個々の患者さんに合わせた治療を行うことで成績が向上しています。遠隔転移のある大腸癌に対しても、手術や薬物療法などを組み合わせた治療が有効であることが分かってきていますが、治療の基準についてはまだまだ検討の余地があるといえます。本研究では、大腸癌遠隔転移のある患者さんに薬物療法を行った時の治療効果の成績や予後に関わる因子を検討することで、より適切な治療方法を提唱することを目指しています。
研究を行う期間	倫理委員会承認後～ 2032年3月31日
研究協力をお願いしたい方(対象者)	2027年3月31日までに大阪市立大学医学部附属病院の消化器外科で、遠隔転移のある大腸癌の治療をされた方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	<p>日常診療で実施される以下の①から⑥の項目についての情報を、診療録より匿名で取得します。</p> <p>① 患者基本情報：年齢、性別、身長、体重、既往歴、併存疾患、家族歴。</p> <p>② 原疾患の状態：診断名、病型、組織型。</p> <p>③ 転移巣の状態：場所、数、組織型。</p> <p>④ 検査結果：血液検査、画像検査（X線、CT、MRI、PET、超音波）、内視鏡検査結果。</p> <p>⑤ 薬物療法の内容、期間、合併症。</p> <p>⑥ 薬物療法と付随した治療（手術、放射線治療、熱凝固治療）の内容（治療日時、方法、治療結果、治療期間、合併症）。</p>
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪市立大学医学部附属病院消化器外科のみで行い、他の施設に情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪市立大学医学部附属病院消化器外科のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	大阪市立大学大学院医学研究科 消化器外科 研究責任者：永原 央
本研究の利益相反	<p>利益相反の状況については大阪市立大学利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。</p> <p>本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。</p>
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	<p>大阪市立大学大学院医学研究科 消化器外科</p> <p>担当者氏名：永原 央</p> <p>電話番号：06-6645-3838</p> <p>メールアドレス：hisashi@med.osaka-cu.ac.jp</p>